



# 日本人の成り立ち

— 縄文人から現代人へ —

日本育種学会  
鳥山 國士

## ■ はじめに

私達が研究の主要な対象としているのは現代日本人です。その成り立ちを理解することは、看護学のみならず諸分野の研究を進めるのに何らかの参考になるかと思い、最近読んだ本<sup>1-3)</sup>を参考に私の考えをまとめてみました。

## ■ 縄文人とは

縄文人とは縄文時代に日本本土に生活していた人々を示します。縄文人が何処から来たかを確実に推定できるような証拠はありませんが、日本本土における縄文人の痕跡は1万3千年前には見られています。縄文人の人口は、遺跡の数からの推計によると、気候が温暖であった縄文中期（BC2,300頃）には26万人に達していますが、狩猟・採集の社会は自然生態系の規制はさけられず、気候が冷涼となった縄文晩期（BC900頃）には7万6千人まで減少しています<sup>3)</sup>。

縄文人の身体の特徴は残された人骨から、頭が大きく、顔は低くて広い。顎のえらの発達が大きく、上下の歯の噛み合わせが鉗子状になっており、上下の歯の先端が直接接触するようになっていました。また、身長は低く、男は160cm弱、女は150cm弱であり、現代人のような四肢末端が短いという特徴はなかったとされており、アジアの中では特異ではありますが、日本の中では全体として均質な集団であったといえます<sup>2)</sup>。

このようなことは、生物集団においてしばしば見られる現象で、ある限られた小集団が繁殖を続けて、その集団が大きくなり拡散しても、繁殖の母体となった小集団の特徴を留め、広い範囲に均質で特徴のある集団を形成する「創始者効果 (founder effect)」<sup>2)</sup>によるものと思われる。

縄文人は、東北南部から南九州・琉球地方まで、現在の日本語の基本となる縄文語を話していました。このことは、縄文人に見られる創始者効果の言語の場面での表れとみられます。創始者効果は一方では人類学的形質に、他方では言語に現れているといっよいでしょう<sup>1)</sup>。

## ■ 稲作渡来民

日本は縄文時代における持続可能であっても発展性に欠ける文化を脱して、弥生時代に入ってから拡大生産発展の文化へと大きな変遷をとげました。その主役をなしたのは稲作渡来民の定着だと考えられています。おそらく、朝鮮半島を経て北部九州に来た、高度なシステムとしての稲作技術を備えた水稲耕作集団が、土着の縄文集団が希薄な湾や潟に接した沿岸低地にトラブルもなく定着し、縄文人との交流を深めたと思われる<sup>2)</sup>。

とりやま くにお

〒251-0038 藤沢市鶴沼松が岡4-12-15

渡来人と縄文人との平和的な共存関係は、初期の水田遺跡には外敵に備える環濠がないことから推定できます<sup>2)</sup>。

稲作の成立には灌漑水路や水田の造成、苗代の播種・田植えから始まる栽培管理、農耕暦の理解、収穫や調整、収穫物の貯蔵などがシステムとして不可欠です。それをシステムとして保有する渡来民の存在なくしては、日本に稲作を定着させることはできなかったと考えられています。また、水田稲作は生態学的にも漁労と結びつき、栄養の上からでも補完的に発展してきたとされており、渡来民は船による移動は厭わなかったようです<sup>2)</sup>。

稲作渡来民は気候的には縄文人の減少をもたらした縄文晩期の低温期が過ぎ去り、温度が安定した中温期に入って日本でも稲作が可能となったBC400頃より、北九州や出雲地方などに移住してきたものと思われ<sup>3)</sup>。

渡来民は1回に渡来する人数は限られており、小人数の移住では第1世代はコロニー内では母国語を話していますが、周囲の縄文人と接触する間に第2世代では家庭内では母国語、外部では縄文語を話すバイリンガルの状況となり、第3世代には完全に縄文語を話すようになったようです。同じような事例は世界各地で知られています。しかし、母国語の声調は、その後の日本語に影響しています。

稲作を行う渡来民はその高い生産性によって、生産性の低い狩猟・採集社会の縄文人よりも圧倒的に人口が増大します。さらに、縄文人の人口比率の大幅な減少には、それ以外の条件、例えば人口密度の高い農耕社会では人間に特化した病原菌を維持しながら、それに免疫力を持った人間が住んでいますが、少数の分散している狩猟・採集民の社会では、そのような病原菌が定着する余地がなかったため、ひとたび感染すると壊滅的な打撃を受けることは、土着民が侵入者と接触して人口減少を引き起こした多くの事例で知られています。縄文人もこのような危機に晒されたかもしれません。このようにして、渡来民の遺伝子型が爆発的に拡大して、弥生人が形成されたものと思われ<sup>3)</sup>。

そのため、新しく渡来した稲作耕作集団とともに、人口の増大した弥生人はLuce Cavalli-Sforzaの「demicな伝播」<sup>1)</sup>、つまり人口圧のために外に稲作適地を求めて移住し、北九州、出雲地方や瀬戸内の湾や潟に接した沿岸の低湿地に拡大定着して、土着の縄文人に入れ替わったのでしょう。

初期の弥生人の特徴は、縄文人と比べて面長、鼻根部あたりの扁平性が強く、鉗状咬合、高顔で、男性は165cm、女性は150cmと身長が高くなっています<sup>2)</sup>。

現在日本人についての研究者の見解として「アイヌと南九州から沖縄に分布する人たちは、地理的には遠くはなれているけれども、人類的特長からみると、やや身長が低く、顔は丸顔で、鼻筋がとおっており、縄文人の特徴と重なる。それと対照的に北九州から近畿地方にかけては身長が高く、顔が長くて、鼻が低いという特徴があり、この人々は弥生時代から急速に分布を拡大した」と日本人の二重構造が指摘されています<sup>2)</sup>。

日本語についても、平安時代の初めまで中央政権に服従しなかった東北地方と、大和朝廷に後まで抵抗した隼人の南九州には、弥生人によって分断された縄文語の共通な痕跡がみられると言われています<sup>2)</sup>。

## ■ 倭の国

弥生時代の中期ともなると、地域ごとに拠点となるような集落が形成され、宗教的あるいは政治的な中心として機能するようになり、小さいながらも「国」が形成されてきます。武器は直接生産に従事する人々を従えるものとなり、対外的には武力統一の道具となって、従属させられた国々では多数の隷属民が生み出されました。そして、吉野ヶ里遺跡に見られるような外敵に備えた環濠集落が出現したのです。

漢書によれば、紀元前後の倭は100余国とあり、当時の倭は日本ばかりでなく、朝鮮半島南部も含まれていたようで、群雄割拠していたものと思われ<sup>3)</sup>。

これらの国々を統一して北九州に勢力を築き、西暦57年に後漢の光武帝に貢を献じて「漢委奴国王」の金印（博多湾、志賀島出土）をうけた人物は、日本神話に登場するイザナギとの推定が成り立ちます。イザナギはイザナミの根の国（島根）も統一しようとしたが、果たせませんでした<sup>3)</sup>。

一方、出雲地方ではイザナミの後継者スサノヲが権力を伸ばし、北九州の勢力を打ち破り、アマテラ

スを岩屋に押し込めた伝承が伝えられているように、天の安河の誓約を結んで、青銅器の輸入、生口の輸出の貿易権と、その経路を手中にしました<sup>3)</sup>。

その結果、朝鮮半島への北九州から壱岐・対馬経由の渡し船による交易路は規制され、出雲・境港から宗像・沖ノ島経由の船団による交易路が開拓されて、青銅器が出雲地方に大量に持ち込まれるようになったのです。これは、荒神谷遺跡からの大量な銅剣、岩倉遺跡からの大量な銅鐸の出土で明らかにされています<sup>3)</sup>。

なお、後漢書に西暦107年、安帝に生口160人を献じて引見を願ったとある倭国王師升（スイショウ）は、スサノヲの音を写したという見方もあります<sup>3)</sup>。

### ■ 豊葦原瑞穂の国

スサノヲの娘婿のオオクニヌシは、諸国の多くのクニヌシたちと婚姻関係をむすび、民政経営に努め、出雲から畿内、越の地方まで勢力圏を広げました<sup>3)</sup>。

畿内は淀川、大和川の流域で、川筋も定かではない葦原の中ツ国といわれた常時氾濫状の広大な未開の湿地デルタ地域でしたが<sup>3)</sup>、渡来民の保持している優れた水利工事の技術によって、一面のアシの原野が豊かな水田に生まれ変わり、豊葦原瑞穂の国となりました。

渡来民の子孫は、さらに大和川を遡って奈良盆地に大規模な水田を造成したものと思われます。このようにして、渡来民によって、日本は完全に分断され、日本人の二重構造が成立したのでしょうか。

オオクニヌシと息子のコトシロヌシは九州・四国・瀬戸内を支配するアマツカミの勢力に国譲りを迫られ、出雲に去ります<sup>3)</sup>。

なお、渡来民の日本語に与えた影響は、無アクセントから、関西方言のように、アクセントに敏感な方言などに分化したといわれています<sup>2)</sup>。

日本人の成り立ちも、古代の文献、神話をもとに解きほぐすと、意外とロマンに溢れる物語となります。

### 参考文献

- 1) Evans. L. T：日向康吉訳『100億人への食糧－人口増加と食糧生産の知恵－』学会出版センター，2006
- 2) 池橋宏：『稲作渡来民－「日本人の成立の謎に迫る」』講談社，2008
- 3) 山中光一：『古代史巨視考』名著出版，2008